

## 1 調査対象校（国立及び特別支援学校を除き、新潟市を含む全公立学校）

小学校等 423 校（義務教育学校前期課程を含む＝以下「小学校」）

中学校等 228 校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む＝以下「中学校」）

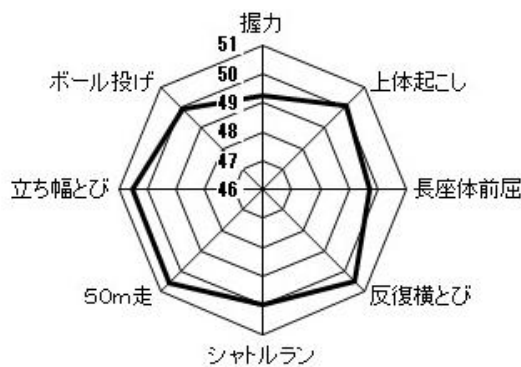
高等学校等 90 校（中等教育学校後期課程を含む＝以下「高等学校」）

## 2 調査期間 令和7年5月から7月

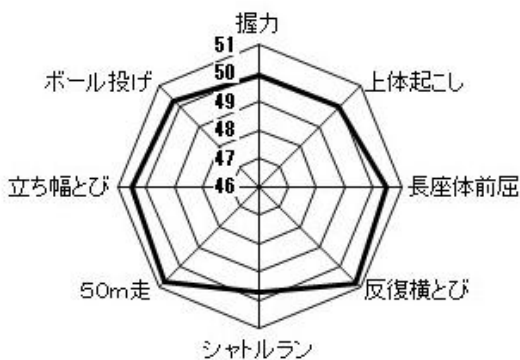
## 3 実技調査内容 小学校3年生以上、中学校、高等学校で8種目を指定して調査した。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
要素	筋力	筋力 筋持久力	柔軟性	敏捷性	全身持久力	スピード	瞬発力	巧緻性 瞬発力

## 小学校3～6年



## 中学校等



## 高等学校等



令和6年度より体力の実態をより正確に把握するため、これまで各学校の平均データの提出を依頼していた実施要領を改め、児童生徒の個人データをすべて提出することとした。

同じく令和6年度より児童生徒の運動やスポーツに対する意識についても実態を把握するために「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に準じて三つの内容についてアンケート調査を実施している。

## 4 令和6年度の県平均値との比較

左のグラフは、令和6年度を50.0として令和7年度の結果を示したものである。令和6年度を上回った種目は、中学校5種目、小学校と高等学校4種目ずつであった。（令和5年度 小学校3種目、中学校6種目、高等学校6種目）

校種別では、8種目の平均値で小学校50.07、中学校が50.30、高等学校50.06といずれも令和6年度を上回った。

小学校では、50m走が50.58と最も上回った一方、握力は49.24と最も下回った。中学校では、反復横とびが50.80と最も上回った一方、シャトルランが49.70と最も下回った。高等学校では立ち幅とびが50.57と最も上回った一方、上体起こしが49.65と最も下回った。

男女別では、男子は中学1年の50.75を最高として、すべての校種において50.0を上回った。女子は50.0を上回ったのは小学6年、中学1年、中学3年、高校1年、高校3年と半数であった。なお、男女を平均した学年別では、中学1年50.37が最も高く、高校2年生の49.82が最も低かった。

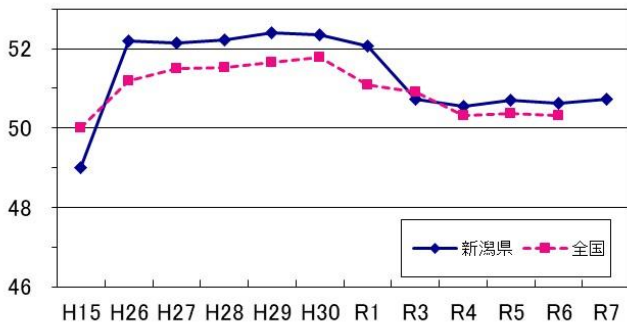
種目別では、反復横とび、50m走、立ち幅とびの3種目において全校種で50.0を上回った。逆に握力、シャトルランは全校種で下回った。

## 5 全国平均値を基準にした場合の体力の変化

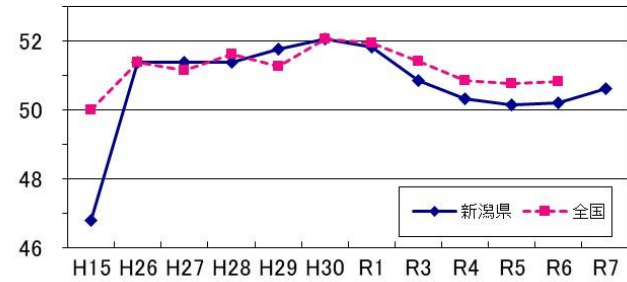
## (1) 小学生の体力

県は、しばらく全国を上回る状態が続いていたが、令和元年度から3年度にかけて、全国を上回る下降幅となり15年振りに全国値を下回った。この令和3年度からは

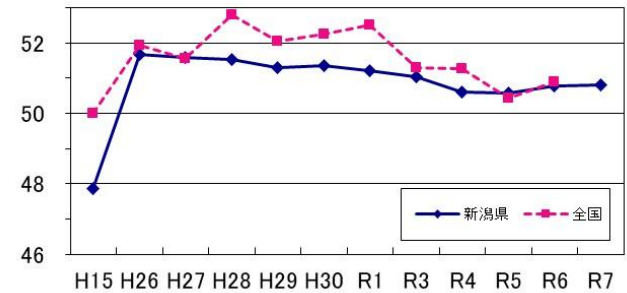
(図1) 小学生の体力



(図2) 中学生の体力



(図3) 高校生の体力



ば横ばいの状態が続くが、全国値が下降したことによって、令和4年度以降は本県が上回る状態になっている。この間、微増と微減を繰り返し、令和7年度は令和6年度を僅かに上回った。

(2) 中学生の体力

全国は、平成30年度をピークに下降している。県も同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて下降局面に入ったが、その下降幅は、全国を上回る急激な落ち込みであった。令和7年度は、令和6年度に続いて二年連続で前年度を上回った。前年比0.4ポイントの上昇は、平成29年度以来の大幅な伸びとなった。

(3) 高校生の体力

全国は、年度ごとの変動が非常に大きい。県は、平成26年度をピークに緩やかに下降した。全国を下回る状態がしばらく続いていたが、令和5年度には8年ぶりに逆転し、令和6年度及び令和7年度はさらに上昇している。

〔グラフの説明〕

県内の公立小・中・高等学校の全ての児童生徒を対象に、体力テストを開始した平成15年度の全国平均値が「50」となるように統計処理をし、平成15年度及び、平成26年度から令和6年度までの全国平均値と、令和7年度までの本県平均値の変化をグラフに表したもの。

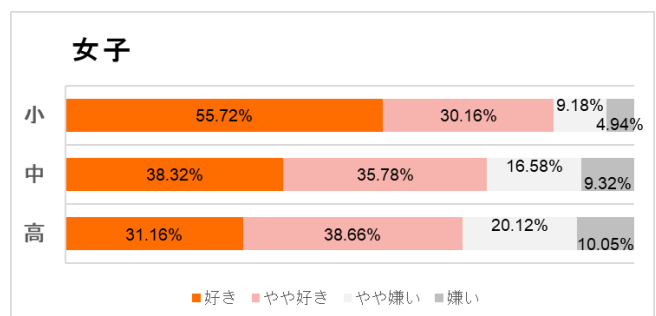
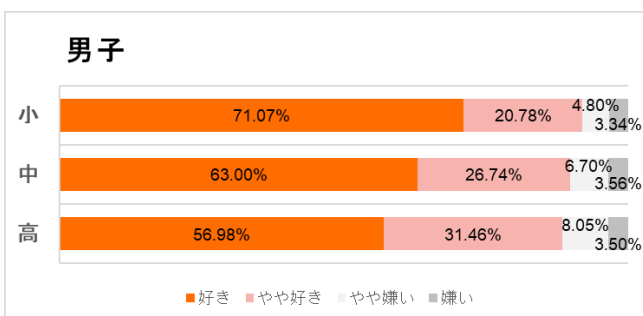
(令和2年度は全国・県ともに中止、令和7年度の全国平均値は未発表)

6 アンケート調査内容

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）に準じ、以下の内容についてアンケート調査を全ての児童生徒（小学校、中学校、高等学校）を対象に実施した。

- (1) 運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか
- (2) 運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツへのいろいろな関わり方について、興味や関心がありますか
  - ①運動やスポーツをすること
  - ②運動やスポーツをみること
  - ③運動やスポーツをささえること（教え合い、大会のサポートなど）
  - ④運動やスポーツを知ること（話を聞く、調べるなど）
  - ⑤運動やスポーツを通じていろいろな人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりすること
- (3) 体育（保健体育）の授業は楽しいですか

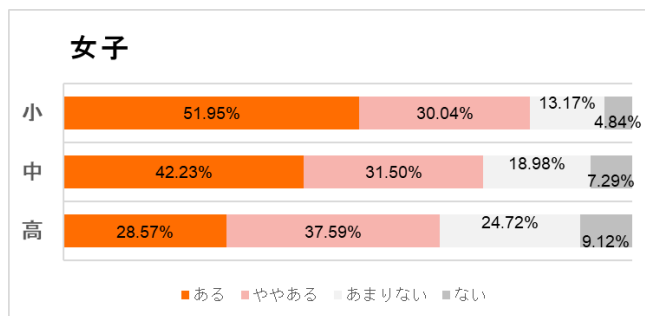
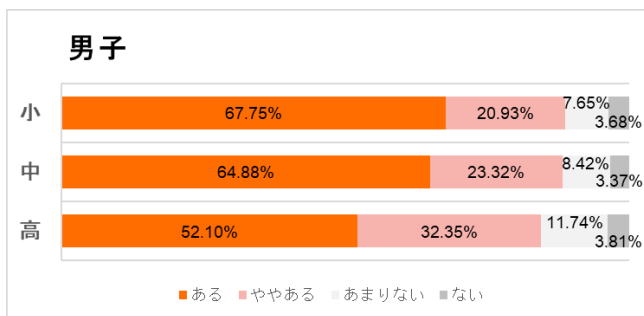
(1) 運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか



令和6年度と肯定的な評価を比較すると、小学校では男子が-0.45ポイント、女子が-1.12ポイント、中学校では男子が+0.44ポイント、女子が+1.10ポイント、高等学校では男子が+2.64ポイント、女子が+0.62ポイントとなり、中学校、高等学校では男女とも上昇した。また、校種ごとの平均値では、割合が徐々に減少する傾向が引き続き見られた。

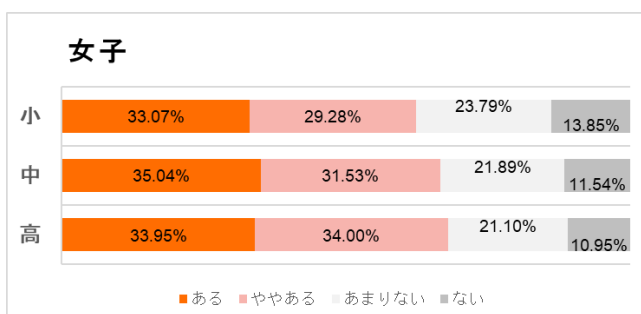
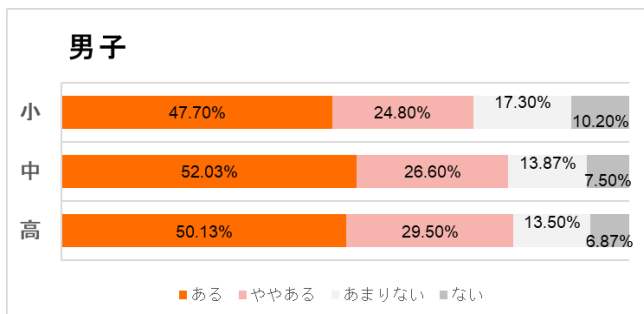
(2)運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。

①運動やスポーツをすること



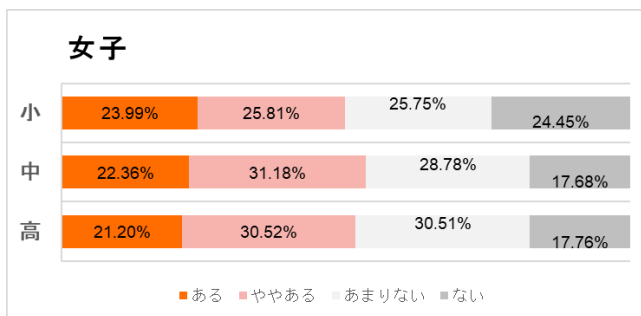
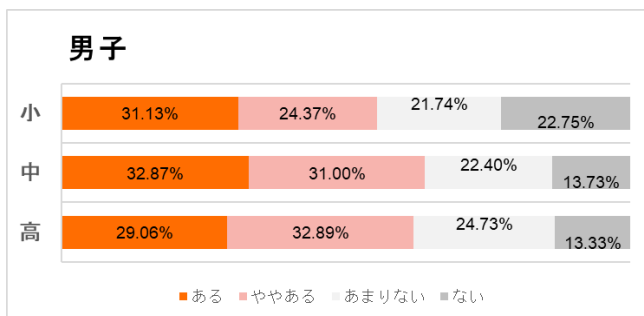
(2)運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。

②運動やスポーツをみること



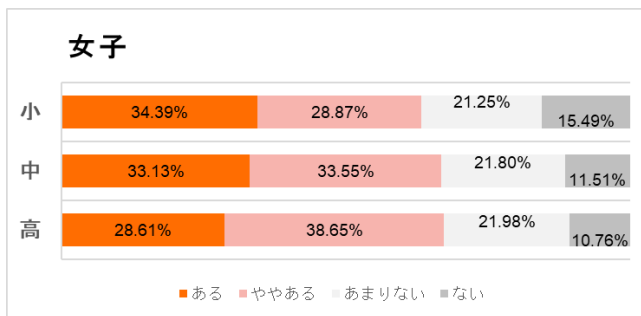
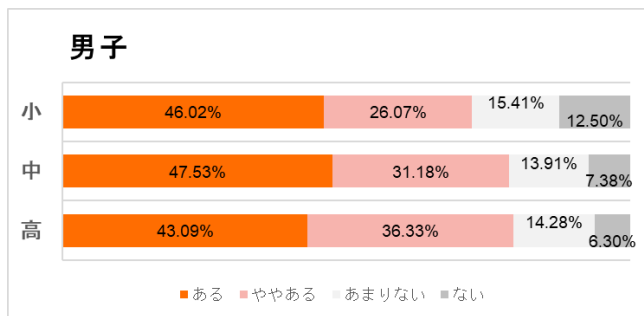
(2)運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。

③運動やスポーツをささえること(教え合い、大会のサポートなど)



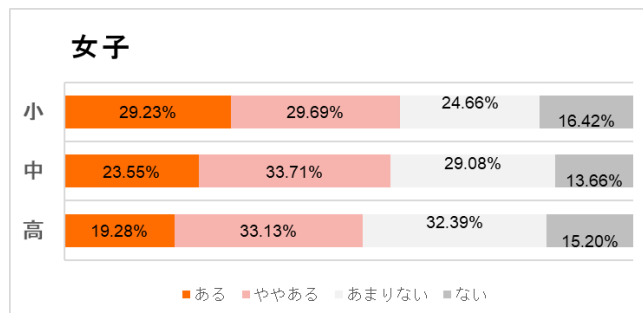
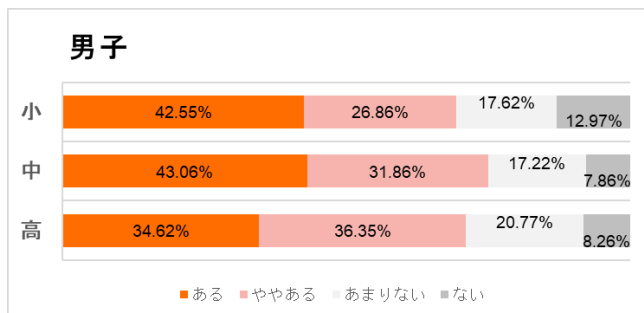
(2)運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。

④運動やスポーツを知ること(話を聞く、調べるなど)



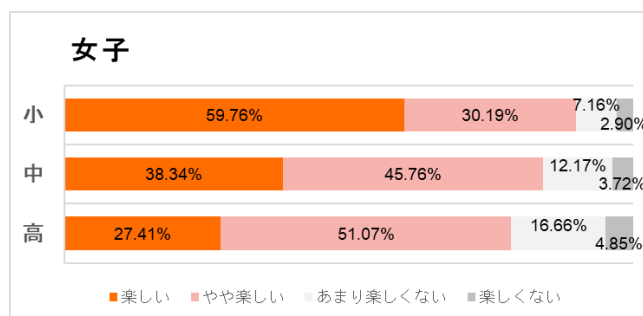
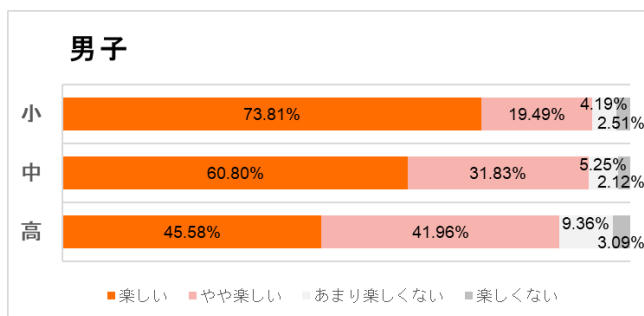
(2)運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。

⑤運動やスポーツを通じて様々な人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりすること



肯定的な評価を質問項目で比較すると「①運動やスポーツをすること」では、「(1)運動やスポーツをすることは好きですか」と同じく校種ごとの平均値が徐々に減少する傾向が見られた。一方、「②運動やスポーツをみること」、「④運動やスポーツを知ること(話を聞く、調べるなど)」では、逆に増加する傾向が見られた。また、「③運動やスポーツをささえること(教え合い、大会のサポートなど)」においても小学校の平均値を中学校、高等学校は上回った。

(3) 体育(保健体育)の授業は楽しいですか



令和6年度と肯定的な評価を比較すると、小学校では男子が+0.5ポイント、女子が-0.65ポイント、中学校では男子が+0.13ポイント、女子が+1.4ポイント、高等学校では男子が-2.06ポイント、女子が-6.12ポイントとなり、中学校では男女とも上昇した。また、校種ごとの平均値では、割合が徐々に減少する傾向が引き続き見られた。

## 7 今後の取組

「新潟県体力テスト」、「健康増進・体力向上のための『1学校1取組』」は実施要項、実施要領を昨年度大きく見直し、2年目を迎えた。「運動好き」、「授業が楽しい」と感じる児童生徒を増やすために、各校における工夫ある取組を引き続き推奨するとともに、優良な事例をとりまとめて県内に周知していく。

また、「新潟県体力テスト」の結果を踏まえて実施する学校訪問では、本年度、学校規模別に訪問校を選定した。学校規模に応じた授業における手立てや体力向上に関わる取組を共有できるよう報告書にまとめて同じく県内に周知していく。令和6年度は9校、令和7年度は11校を訪問したが、令和8年度は事業規模をさらに拡充していく。

さらに、各市町村の体力向上に関わる施策の資料となるよう、本年度より情報処理を外部委託し、提供するデータについてフォーマットを大幅に見直した。各市町村の要望を踏まえながら、次年度以降のフォーマットについても検討していく。